

ある軍医の戦中戦後

《1937-1948》

7月
下旬刊

小野寺龍太

四六判・352頁
定価 2200円 +税

ISBN 978-4-86329-272-7
C 0095

目次から

日支事変(1937)から敗戦直後(1948)まで、従軍手帖と家族間の往復書簡から甦る、戦地と銃後(日本本土)の日常を、追体験するドキュメント!!

I 軍医として北支へ(昭和12年~14年)

易県で野戦病院開設/戦地で受け取った最初の手紙/患者八百人と美しい星空/芸者の色付き写真は慰問品中のヒット/昭和十三年春の世相/石井部隊に入隊希望/コレラと賞詞/『麦と兵隊』・戦死者の墓参・戦地慰問文/昭和十四年春夏の家族の状況

II 召集解除(昭和15~18年)

戦に行きても死なれず畳の上にてこの事あり/三紀子人形・「民族の祭典」・コーヒー/日米戦争前の国内の状況/軍務解除と別府温研勤務/軍艦乗組員の戦争体験談/昭和十八年前半の世間雑事/養子問題の決着

III 朝鮮赴任から引揚げまで(昭和18年~20年)

精喜の物理好き及び防空・防災/精喜の再召集/昭和十九年夏の庶民生活/昭和二十年のお正月/徴兵検査で朝鮮を回る/ドイツの敗北・対戦車戦法・ソ連の参戦/福岡大空襲

IV 敗戦後(昭和20年~23年)

直助の安否と民主主義/食べ物と民主化運動/東北大水害と天皇行幸/クリスマス・蓄音機など/引越直後の癌発覚/精喜の死

小野寺精喜年譜

◆戦後78年間、大切に保管されていた
従軍手帖と手紙から甦る混乱期の世相!

現代日本では、戦争は最大の悪で、前線は残虐、銃後は悲惨に描かねばならぬ、という風潮があり、「事実をそのままに伝える」という歴史学の本道が忘れられているように感じる。しかし戦争中でも人は可笑しければ笑い、悲しければ泣き、怒ったり喜んだりしていたのであり、それをそのまま描いてこそ「その時代」を理解し、再体験することが出来ると思う。(本書「はじめに」から)

《著者の横顔》 小野寺龍太(おのでのら・りゅうた)

1945年生まれ。福岡県立修猷館高等学校卒業。九州大学大学院工学研究科博士後期課程単位修得退学。九州大学名誉教授(工学博士)。現在、日本近代史、特に幕末期の幕臣の事蹟を調べている。著書『古賀謹一郎』(ミネルヴァ書房、2006年)『栗本鋤雲』(同、2010年)『岩瀬忠震』(同、2018年)『日露戦争時代のある医学徒の日記—小野寺直助が見た明治』(弦書房、2010年)『幕末の魁、維新の殿—徳川斉昭の攘夷』(同、2012年)他。

[FAX: 092-726-9886]

| | | | |
|-------------------------------------|---------------|-----------------------------|---|
| 流通センター 取扱品 書店・帖合 小出版 地芳 | 冊 | ある軍医の戦中戦後 《1937-1948》 | 小野寺龍太 定価 2200円+税 ISBN 978-4-86329-272-7 |
| | 冊 | 占領と引揚げの肖像BEPPU 1945 1956 | 下川正晴 定価 2200円+税 ISBN 978-4-86329-203-1 |
| | 冊 | 忘却の引揚げ史 泉靖一と二日市保養所 | 下川正晴 定価 2200円+税 ISBN 978-4-86329-155-3 |
| | 冊 | 戦地巡歴 わが祖父の声を聴く | 井上佳子 定価 2200円+税 ISBN 978-4-86329-176-8 |
| | ご注文日 ご担当者様 | 弦書房 —Genshobo— | 〒810-0041 福岡市中央区大名2-2-43 ELK大名ビル301 TEL:092-726-9885 FAX:092-726-9886 URL http://genshobo.com/ e-mail books@genshobo.com |